



2017 年 8 月 9 日

BMW Team Studie の BMW M6 GT3 は、 予選 2 位からスタート、決勝 6 位完走でポイントを獲得 2017 AUTOBACS SUPER GT Round 5 FUJI 300km RACE

ビー・エム・ダブリュ株式会社(代表取締役社長: ペーター・クロンシュナーブル)が、コラボレーション・パートナーとしてサポートする BMW Team Studie の BMW M6 GT3 は、8 月 6 日に開催された 2017 年 SUPER GT 選手権第 5 戦の決勝において、6 位でフィニッシュした。

公式練習

気温 28.4℃/路面温度 34℃

第 5 戦の初日は曇り模様でのスタートとなった。Team Studie のプラクティスセッションは、ミューラー選手のドライブで走行を開始した。ミューラー選手は、多くの時間を費やし、このラウンドにマッチングするタイヤを選定し、マシンセットアップを確認した。そして準備されたメニューを消化して、荒選手にステアリングを渡した。マシンに乗り込んだ荒選手は、残りの時間でセットアップとタイヤを確認して、セッション終了間際に予選シミュレーションを実施しようとしたが、赤旗発生の為にアタックを行う事無くセッションを終えた。

公式予選 Q1

気温 31℃/路面温度 38.4℃

Q1 はミューラー選手がドライブを担当した。チームはアタックのタイミングを計り、セッションスタートから若干のウェイティングを経て、マシンをコースへ送り出した。ミューラー選手は、アウトラップに続く計測 1 周目と 2 周目でタイヤを温め、計測 3 周目にペースアップして、まずは 1 分 40 秒台を計測すると、続く計測 4 周目にアタックを開始した。午前のセッション後に変更を加えたセットアップと、ミューラー選手のミス無いドライブで 1' 38.097 を計測し、公式予選 Q1 を 1 位ポジションで通過した。

公式予選 Q2

気温 30℃/路面温度 38.8℃

Q2 は荒選手がドライブを担当した。このセッションもコースオープンと同時にマシンを出さず、1 分程のウェイティングの後、Studie BMW M6 はピットを出た。荒選手は、計測 1 周目・2 周目とアタックのタイミングを計り、計測 4 周目にアタックした。そして Q1 から更にタイムを削った 1' 37.809 を計測し、2 番手のポジションで Q2 を終えた。

決勝

第5戦の決勝日は晴れ時々曇りのコンディションでスタートした。決勝時刻には雨の可能性もある予報だったが、雨が落ちることはなく、曇りがちの空模様の下、決勝レースはスタートした。

天候:曇り。気温 31℃/路面温度 37.4℃

決勝はオンタイムでパトカー先導のパレードラップからスタート。1周のフォーメーションラップを経て、300Kmのレースが開始された。Team Studieのスタートドライバーは荒選手が担当した。スムーズなスタートで2位をキープし、タイヤを労る走りでレースの序盤を戦った。チームは23周目にルーティンのピットストップを実施した。荒選手は2番手ポジションで、ミューラー選手に Studie BMW M6 を託した。

この時点で上位陣の中でピットストップを済ませていたのは、Team Studie と1周前に入った31号車のプリウスのみ。確実なピット作業でポジションをキープしたまま、マシンを送り出せたかと思われたが、タイヤ無交換のプリウスに先行を許してしまった。この時、コースに戻ったばかりのマシンにも異変が発生した。タイヤセンサーが不具合を起こし、空気圧の異常を知らせる警告が出たと同時に、コース上のタイヤマールを拾ったリヤタイヤがバイブレーションを起こしてしまう。コース上のミューラー選手は、タイヤの状況を見極める為に2周にわたってペースを落とし走行。このアクシデントで Studie BMW M6 は7秒のタイムを失ってしまった。

マシンに異常がない事が確認出来た後のミューラー選手は、タイヤのグリップダウンに悩まされながらも、一貫したペースで残りの周回数を消化して6位のポジションを守りきり、チェッカーを受けた。

鈴木康昭 チーム代表兼監督

「まずは、同じ BMW のチームとして、ARTA さんの勝利をお祝いしたいと思います。1位の ARTA さんと予選のタイムは僅差でしたが、2位のグッドスマイルさんも含め、決勝のラップタイムには格段の開きがありました。完敗です。3位から5位のチームに関しては、タイヤ無交換であったり、2本交換だったりピット戦略でポジションを奪われてしまい、ドライバーには大変申し訳なく思います。しかし、我々の現状では4本交換しか手がないのが事実です。予選結果は良くて決勝は6位。今日の段階では、致し方無い結果だったと思います。また、ミューラーに代わった直後にタイヤプレッシャーの警告が出て、その不具合のジャッジの為に7秒を失いましたが、そのロスがなくても、5位のポルシェには追いついていなかったのも、現状を認める必要があると思います。今回の結果を受け、鈴鹿に向けてレース結果を正確に分析し、もっと強いチームにしたいと思います。」

ヨルグ・ミューラー選手

「予選が非常に素晴らしく、荒選手が1スティント目に良い仕事してくれたにも関わらずの結果なので、非常に残念です。ピット後に問題が生じた事でポジションを落としてしまいました。自分としては表彰台を狙っていたので、この結果には満足出来ていません。次の鈴鹿も精一杯走ります。」

荒聖治 選手

「表彰台に上がれなかった事は非常に悔しく残念ですが、自分達の持っているものは全て出せたと思っています。その上で、表彰台に上がるには少し距離があり、まだ課題があることを実感したレースでした。」

この件に関する読者および視聴者からのお問い合わせ先は、
BMW カスタマー・インタラクション・センター:フリーダイヤル 0120-269-437 を
ご掲載ください。

受付時間: 9:00-20:00 年中無休

BMW インターネット・ウェブサイト: <http://www.bmw.co.jp>

この件に関する報道関係者のお問い合わせは:
BMW Japan Corp. 広報室: 03-6259-8025 (企業広報)